

平成30年 第11回 当別町教育委員会定例会議事録

日 時 平成30年9月14日（金） 午後2時00分  
 場 所 役場3階 中会議室  
 出席者 本庄教育長、武岡教育長職務代理、寺田委員、小林委員、佐々木委員  
 出席職員 山崎教育部長、北村学校教育課長、小出社会教育課長、須藤子ども未来課長、  
 山谷学校教育課参事、小川社会教育課主幹、三浦社会教育課主幹、  
 石川子ども未来課主幹、玉木総務係長、高島学校教育係長、  
 米内学校教育係主査、木村給食センター係長、栄木子育てサポート係長  
 傍聴者 なし

<p>【開会の宣言】 教育長</p>	<p>これより平成30年第11回当別町教育委員会定例会を開催致します。</p>
<p>【議事日程】 教育長</p>	<p>日程につきましては、各委員に配付しています日程表により議事に入ります。</p>
<p>【日程第1】 教育長</p>	<p>日程第1、議案第1号を上程致します。 提案の説明を求めます。 教育部長。</p>
<p>教育部長</p>	<p>(提案の説明)              只今、議題となりました議案第1号当別町立当別小学校・当別中学校区域学校運営協議会委員の委嘱につきまして、提案の説明を申し上げます。議案につきましては1頁を高覧ください。              本件は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第47条、並びに当別町立学校管理規則第9条及び当別町立学校運営協議会の運営等に関する規則第5条の規定に基づき、新たに委員1名、松岡宏尚氏を委嘱するため委員会の議決を得ようとするものです。              松岡宏尚氏は、現在30歳で、町内の企業に勤務されております。また、当別町商工会青年部や当別青年会議所に所属し、地域の様々な事業や貢献活動にも積極的に参加されております。日々、当別町のために尽力されている方です。              先日も、当別中学校のキャリア教育の一環として、生徒向けに講演を行っていただいております。学校教育に対しても大変協力的な方です。              人柄も良く、周囲からも慕われる人物であることから、学校運営協議会において、学校と地域の連携を担う委員とすべく、当別小学校及び当別中学校の両校長から教育長あてに、学校運営協議会委員推薦書が提出された</p>

	<p>ところです。</p> <p>よろしくご審議をいただきますようお願い致します。</p>
<p>教育長</p> <p>佐々木委員</p> <p>学校教育課長</p>	<p>ただ今、提案説明がありましたが、何か、ご質問等がございますか。</p> <p>西当別地区の学校運営協議会には、当別青年会議所からという委員の枠はあるのでしょうか。</p> <p>当別青年会議所という枠はなく、今回については、推薦された松岡氏が当別青年会議所の所属であったため、このように記載をさせていただきただけです。</p> <p>委員の任命について簡単に申し上げますと、当別町立学校管理規則第9条及び当別町立学校運営協議会の運営等に関する規則第5条の規定により、1校につき15名以内とし、教育委員会が任命するものとなっております、委員は校長が推薦することも出来るものとなっております、今回は松岡氏が当別青年会議所の所属で推薦されたため、このような表記としたところです。</p> <p>松岡氏が委嘱されると当別小学校・当別中学校区域学校運営協議会委員は12名となります。</p>
<p>教育長</p>	<p>他にございませんか。</p> <p>なければ、質疑を打ち切り、議案第1号は原案のとおり決定してご異議ございませんか。</p> <p>(「異議なし」の声)</p> <p>異議なしと認め、委員全員の賛成を得ましたので、議案第1号は原案のとおり決定致しました。</p>
<p>【日程第2】</p> <p>教育長</p>	<p>日程第2、議案第2号を上程致します。</p> <p>提案の説明を求めます。</p> <p>教育部長。</p>
<p>教育部長</p>	<p>(提案の説明)</p> <p>只今、議題となりました議案第2号平成30年度全国学力・学習状況調査「北海道版結果報告書」に掲載する当別町の結果報告につきまして、提案の説明を申し上げます。議案の3頁をご高覧ください。</p> <p>本件は、平成30年度全国学力・学習状況調査「北海道版結果報告書」</p>

	<p>に掲載する当別町の結果報告を北海道教育委員会に提出するため、委員会の議決を得ようとするものです。</p> <p>よろしくご審議をいただきますようお願い致します。</p> <p>なお、詳細につきましては、学校教育課参事より説明申し上げます。</p>
<p>学校教育課参事</p>	<p>詳細について説明申し上げます。</p> <p>議案につきましては、3～5頁をご高覧ください。</p> <p>平成30年度全国学力・学習状況調査「北海道版結果報告書」への当別町の結果報告の掲載につきまして、この度、町内小中学校の本調査に関わる結果の数値がまとまりましたので、この結果を掲載するにあたり、委員会の議決を得ようとするものです。掲載する様式につきましては、平成30年第8回(平成30年7月18日開催)教育委員会定例会におきまして、すでに委員会の議決を得ておりますので、今回は掲載内容についてご説明申し上げます。</p> <p>はじめに、議案2頁の小学校の結果についてです。まず、「教科全体の状況」ですが、レーダーチャートに示しているとおり、当別町は、国語Aに関して「書くこと」「読むこと」の領域が全国より高い状況となっております。その他は、全道平均ほぼ同じような状況です。国語Bについては、全道平均とほぼ同様です。算数Aについては、「量と測定」の領域が全道平均より低い状況であるものの、「図形」「数量関係」の領域が全国平均より高い状況です。算数Bについては、全ての領域が全道平均と同様となっております。また、3年に1度実施される理科におきましては、「地球」の領域が全国・全道平均より低い状況ですが、その他の領域で全国平均より高い状況です。</p> <p>次に、「正答数が全国の下位約25%に含まれる児童の割合」の箇所ですが、ここは要するに下位層の割合がどうであるかを示しています。当別町の状況としては、国語と算数においては全体の下位グループに位置する児童の割合が、昨年度に比べて大きく減少したということが示されています。いわゆる下位層の人数が少ないという状況です。</p> <p>次に、「平均正答率」についてです。当別町の状況としては、全ての教科において全国とほぼ同じ結果となっております。</p> <p>つぎに、「児童質問紙調査」についてです。「家で、学校の授業の予習・復習をしていますか」という質問に対して、「している」「どちらかといえば、している」と答えた児童が全体の80%以上となっており、全国・全道平均を上回っております。各学校における長期休業中の学習サポート、土曜学習会、放課後学習会の実施、各校における児童の自発的学習に対する支援を行ってきたことにより、児童の家庭学習の習慣の定着に繋がったのではないかと考えております。</p>

次に、「学校質問紙調査」についてです。「調査対象学年の児童に関する算数の指導として、前年度までに、補足的な学習の指導を行いましたか」という質問に対して、「よく行った」という回答が100%となっており、各校とも成果や課題の共有を中学校と行っており、9年間で達成する児童生徒像を明らかできたことにより、具体的な改善の取組に繋がってきたものと考えられます。

次に、「分析」についてです。左側はレーダーチャートと質問紙調査の結果から分析をしたもので、右側は改善に繋がった内容を示しております。内容については、ご高覧ください。

次に、「当別町の学力向上策」についてです。教員研修等の4項目を基本として、学校と連携を密にしながら、進めて参りたいと考えています。

1点用語についてご説明いたします。教員研修の「メンター」という言葉ですが、メンター研修というもので、これは職場において、先輩の教師が若手の教師に対し、それぞれの現場の実態に合わせてより実践的な内容について指導を行っていくという内容のものです。

続きまして、議案5頁の中学校の結果についてです。まず同様に「教科全体の状況」ですが、当別町の国語A及びBについては、全国・全道平均より低い状況で、数学A及びBについては、全国・全道平均とほぼ同様です。その中でも「図形」の領域が全国・全道平均よりも高い状況となっております。理科については、全国・全道平均よりも高い状況です。特に「生物的領域」がかなり高くなっております。

次に、「正答数が全国の下位約25%に含まれる生徒の割合」についてですが、国語A及びBにおいて昨年度より減少し、数学A及びBにおいては微増したという結果となっております。

次に、「平均正答率」についてですが、理科が全国・全道平均を上回り、数学は全国・全道平均とほぼ同様、国語は全国・全道平均を下回るという結果となりました。

次に、「生徒質問紙調査」についてですが、「生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか」という質問に対して、「当てはまる」と回答した生徒が36.4%となっており、全国・全道平均を上回っております。これは、学校において、言語活動の充実を図った授業実践に取り組んできたものによるものと考えられます。

次に、「学校質問紙調査」についてですが、「言語活動について、国語科だけではなく、各教科、道徳、総合的な学習の時間及び特別活動を通じて、学校全体として取り組んでいますか」という質問に対して、「よく行った」という学校が100%となっております。生徒質問紙調査の回答と同様に教員の授業実践の結果として現れているのではないかと考えてお

	<p>ります。</p> <p>次に、「分析」についてです。左側はレーダーチャートと質問紙調査の結果から分析をしたもので、右側は改善に繋がった内容を示しております。内容については、ご高覧ください。</p> <p>次に、「当別町の学力向上策」についてです。小学校同様に、教員研修等の4項目を基本として、学校と連携を密にしながら、進めて参りたいと考えています。</p> <p>議案部分の説明は以上となります。</p> <p>次に、別冊をご高覧ください。この別冊は、今回の本調査の結果を踏まえて、当別町の学力向上プランを作成したものです。まず1ページですが、プランの目標は掲載のとおり「全国学力・学習状況調査で全教科全国平均以上をめざす」としております。この目標は、小中一貫教育の大きな目標でもある「15歳の学力保障」という部分でも謳っていることから設定しました。常に全国を超えることを目標としていただきたいと思いますと考えております。</p> <p>次に、「現状」についてですが、先ほど議案の説明でもさせていただきましたとおりですので、割愛いたします。</p> <p>次に、「具体的な方策」についてですが、教育委員会が成すべきこと、教育委員会として各学校に働きかけること、それを受けて学校がどのような取り組みを進めていくのかということについて記載しました。こちらについては、すでに校長会で提起しており、取り組むよう指示しているところです。</p> <p>本プランのスケジュールについてですが、9月の今の時期は、各学校において学校改善プランを見直し、新たなプランを作成してもらう段階となっております。</p> <p>そして、各学校で作成した学校改善プランが2ページ以降に記載されているものとなります。こちらも全4校分まとめてすでに校長会で提起し、学校間での取組の交流を行ったところです。</p> <p>特に今年度は、小中一貫をさらに推進するという大きな目的がありますので、学校区ごと、当別小学校と当別中学校、西当別小学校と西当別中学校の中で、それぞれのプランの内容についてしっかりと交流を行い、両校の研修・授業づくりの担当教員を中心に、日々の授業の改善を行いながら学力向上に努めていただきたいと思いますと考え、各校のプランについて情報提供したところです。</p> <p>以上です。よろしくご審議いただきますようお願い致します。</p>
<p>教育長</p>	<p>ただ今、提案説明がりましたが、何か、ご質問等はございますか。</p>

武岡代理	<p>4頁の小学校の学校質問紙調査について、100%となっており、全道・全国との差が非常に大きい様子ですが、「よく行なった」という基準はあるのでしょうか。</p>
学校教育課参事	<p>これができたら「よく行った」が付けられるという明確な基準はありません。しかし、補充的な学習等をしっかりと行なってきたかという点については、道教委から提供される「チャレンジテスト」を活用したり、昨年度までの全国学力・学習状況調査の出題傾向について各学校で分析して指導を行う等、事前に学力テストに向けて各学校で取組を行っていると、教育委員会事務局としては把握しております。</p>
寺田委員	<p>4頁の小学校「当別町の学力向上策」の中で、「授業改善推進チームを活用したアクティブラーニングの視点を取り入れた授業改善の推進」とありますが、「授業改善推進チームを活用した～授業改善の推進」という部分で言葉が重なっていると思うのですが、小学校には別に「授業改善チーム」という組織があるのでしょうか。</p> <p>中学校は「アクティブラーニングの視点を取り入れた授業改善」となっており、小学校と中学校で文言が異なるので、統一しても良いのではないのでしょうか。</p>
学校教育課参事	<p>文言の説明が不十分で申し訳ありません。</p> <p>小学校のみ「授業改善推進チーム」というものがあります。平成30年4月から「授業改善推進チーム活用事業」という事業により、各小学校に1名ずつ加配教員が充てられており、この教員が2校を行き来して、授業改善に取り組む事業です。</p> <p>また、「授業改善推進チーム」が固有名詞であることと、道教委でもこの文言が使用されており、それに倣っているため、この部分だけ表現が複雑になっております。</p>
寺田委員	<p>もう一点伺いたいのですが、別冊8頁の当別中学校の学校改善プラン4改善方策(5)の中で、「訳そえの授業」という言葉が出てきているのですが、これはどのような意味なのでしょうか。</p>
学校教育課参事	<p>これは、全国学力・学習状況調査のB問題等で「理由を添えて、〇〇字以内で説明しなさい」という問題が多く出されており、「〇〇だから、△△という答えになる」「〇〇という観点から、△△という答えに至った」というように、単純に答えだけではなく、「訳(わけ)添えて答える」ことが求められるため、それに対応するための授業という意味です。</p>

武岡代理	この学校改善プランは、保護者や一般の方にも公開するものなのでしょうか。
学校教育課参事	学校だより等により、この学校改善プランを少し簡略化し、各学校で周知を図っているところです。
武岡委員	<p>以前の教育委員会定例会で、学力テストの結果の取り扱いについて、「全国・全道平均と比較して高い、低い」と言っても分からないので、基準を出しなさいという話になり、「プラス〇%～△%はやや高い」等の基準を設けたと思うのですが、当別小学校のみ基準の数値が記載されていないので、指導を入れて、形を整えたほうが良いのではないのでしょうか。</p> <p>決して数字だけにこだわる訳ではありませんが、各学校揃えたほうが良いかと思います。</p>
学校教育課参事	指導いたします。
武岡委員	小学校の理科の「地球」の領域が下がっているようですが、例えば土曜教室等で「化石採集ツアー」や「天文観察教室」みたいな現地学習を実施してあげると、インターネット等でただ調べることよりも、子どもは興味を持てるかと思うので、来年度計画していただけたらと思います。
学校教育課参事	西当別小学校6年生の理科の授業では、毎年スクールバスでスウェーデンヒルズ方面の地層を見に行く学習を実施しております。今いらっしゃる一貫教育推進講師の方が理科教員であるため、毎年計画して連れて行ってくれているという状況であるため、それが町内に波及するように検討して参ります。
寺田委員	<p>今日たまたま新聞で「学力の競争を疑問視している教職員が多い」という記事を読み、競争をさせるのではなく、子ども一人ひとりの学力の定着が大切であると感じました。その点は当別町の教職員の皆様もご理解くださっていると思いますが、このような学力テストの結果等が出された時には、どこかと比べ、競うという考えではなく、子ども一人ひとりの学力のためにという本質を外さないようにしていただければと思います。</p> <p>また、今回まとめていただいた資料を見ると、北海道が徐々に全国平均に近づいている様子が見られ、北海道全体が頑張っていることが感じられ、このような学力テストもひとつの目標として捉えると、意義のあるものだと思います。</p>



	<ul style="list-style-type: none"> <li>○認定こども園当別夢の国幼稚園文化祭の開催について</li> <li>○ふとみ保育所文化祭の開催について</li> <li>○ふとみ保育所の公私連携幼保連携型認定こども園移行に係る運営法人選定公募型プロポーザル選考結果について</li> </ul>
教育長	<p>次回の定例会の日程は、平成30年10月17日（水）午後2時から役場庁舎3階の中会議室で行いますので、よろしくお願ひします。</p> <p>以上で全てを終了させていただきます。お疲れ様でした。</p>

閉会 午後3時00分